大御[illegible]番

四

内閣文庫
和書
類
號 三二五六九
冊 三九二
一五二函
一二一架

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394 (281)
函號 152 121

国立公文書館
National Archives of Japan

享保三戌年三月十六日

寛永三戌年五月廿九日誕生

大御番戸田備後守組吉宗君　青山源次郎正次

青山源一郎正久養子
小普請松平肥前守組

正次京より大坂の定番ニ年ゝ参候く
享保十七年三月廿七日小十人御将の時
致騎馬と勢む
享保十九寅年裏二条城の番衆ニ参り
此年十一月十三日
證明院君御贈位御装物若副ニして
関東よりかへりきよしとうけたまわり

十七日京をも立 十八日江戸ゟ着し
十二月十六日御暇 黄金一枚 御服二ツ賜り
夫より又二条城ニ帰りて守護す
元文四未年六月晦日 於二条城 病死 年三十一
西坂の龍之上出水通長圓寺ニ送る

享保三戌年三月十二日
正徳四午年十二月廿七日家督
大御番戸田備後守組
太宰平右衛門定教中嫡子
小普請大久保肥前守組
二百俵 太宰平八郎定親
定親京大坂の縁ニ依りて来る
享保九辰年十月九日 新御番石川我平次郎組

享保三戊戌年三月十二日

西尾孫右衛門西之丞忠以

正徳二壬辰年六月十五日家督

小普請中川伊勢守組

大御番戸田備後守組　三百石　西尾孫右衛門西庸

西庸事大坂の勤番小屋十三年勤之

元文二丁巳年十二月二日　隠入久留里牧馬支配

延享三丙寅年六月九日死　五十七歳

享保三戌年三月十六日
川井次郎左衛門久重惣領
宝永二酉年九月廿九日御目見
小普請中川伊勢守組
大御番戸田伊賀守組　高三百石　川井喜右衛門久守

久守事大坂の役之儀ニ付出る
享保十三申年三月廿七日大番頭稲垣の時
歩行勝手ニ而不能出務

享保十三年年六月十六日御目見之奉行
寛保元酉年十月廿八日御役入小普請組支配
延享元子年二月廿六日死　五十七歳

享保三戌年三月十二日

柘植八郎右衛門家督八才ニ而

小普請入 中川伊勢守組

宝永三戌年十月廿日誕生

大御番大岡備後守組 高石 柘植喜八郎英利

英利家督之後の願ニ付而年々養子

享保十一午年三月廿七日大公儀様御の時

惣領勝之丞ト改名免

延享四卯年九月廿六日死 四十二歳

享保三戌年三月十二日

享保二酉年八月十二日家督

大御番戸田備後守組

番衆寄馬西脇三郎忠成

小普請中川伊勢守組

三男　高田喜六郎西脇

内蔵

西脇氏大坂の御番の節も参り季候し

享保十二未年三月廿七日　小十人組将の時

歩行惣子と勢力へ

寛保二戌年六月五日　大御番組

同年七月朔日　在番の節御番ニ参りて

御暇申付候　附腹にて疵いたし候も

御恩偏に

延享二丑年夏二条城の在番に参る
寛延元辰年秋坂城の在番に参る
宝暦元未年夏京の定番に参る
宝暦四戌年秋坂城の在番に参る
宝暦七丑年六月十日辞入八十才十三郎世継
明和二酉年十二月二日死七十四歳

享保三戌年三月十六日
正徳元卯年十二月廿九日家督
深尾伊左衛門元次養子
大御番戸田伊予守組
小普請朽木和泉守組
二百石俵 深尾隼人昌明（アサ）
同年秋坂城の在番に参る
享保六丑年夏二条城の在番に参る
享保七寅年十月廿八日大御番土書組入
享保八卯年二月十五日二条城の在番にて
条里ハ御服白銀拾枚時服二を賜る
是より毎年も恩賜あり
享保十一午年三月廿七日大介御将の時

地白に黒塗三本筋黒太筋を停止に
深出しける馬印を為しく
馬上にかゝく帰ると務む
同年秋坂城の普請に参る
享保十四年長二条城の普請に参る
享保十五戌年二月廿八日 元方御納戸役
同年十二月十八日 布衣着之を免さる
享保十八丑年二月廿八日 御目見
享保二十卯年十月廿三日
利根姫君の御方御入輿の時の御供を
命せらる 十二月廿八日
姫君仙台へ御入輿の時御供を務免

元文三午年四月廿八日 御留守居番
延享三寅年九月七日 御先鉄炮頭
寛延二巳年十月十八日 猟捕の役を
兼ぬべきの仰を蒙る
寛延三午年四月廿日 年来勤めしとて
加役を免さる
宝暦二申年六月十二日
有徳廟の葬送を務めしとて時服三を
賜る
宝暦三酉年三月十二日 松平宮内少輔
忠恒 相良の邸に於て 組与力逃去
奉り御宿篤によのぞみ貴代之に

其親族共の和ひ一統せさるよし
申くれ其係より訴へし盛秀より助
死去の砌ほ遂くきしめは当代乃
事先よりへし紀しや存へきよ
延引をし事等閑のいたそ訓
なりしと文作并親族よりへしと
仰出されし并拝免さる
宝暦六丙子年二月朔日死八十六歳

享保三戌年三月十八日
元禄十五年七月十二日跡目
大御番戸田伊後守組 三百俵 織林源三郎義昌
織林源三郎義信嫡子
小普請大屋肥前守組
改 助太郎 源主清
義昌弟大坂の定番ても来る
享保九辰年十月九日新御番曽我伊予守組

享保四亥年十月十八日

平岩又左衛門道揚書状

拂方御納戸

元横田家

大御番本多伊豫守組　二百五十俵　平岩又左衛門道賢

享保六丑年夏二条城の御番ニ而参る

享保九辰年三月十二日　拂方御納戸

享保四亥年十月十八日

享保三戌年十月廿九日諦門

中村孫四郎元信惣領
小普請組永井官内支配

大御番本多伊豫守組 十四才 四郎兵衛 中村藤九郎元貞

元貞ハ京大坂の宗匠ニ而手習事ニ及く
享保十二年未年三月廿七日大納言御将の時
琉球馬を拝領
享保十六亥年先より将監へし中村
篆の一地ニ白鳳の石
将軍家に入し百石まて
台徳院ニ入て而へりる 白鳳の石ハやくなき
とのにかへりた まつ古く

持仏ハしかとの御事にて　台徳公より入し事ニて精を元庭よ
将軍家の
御くさしめのふ
御なりしとえおく
享保十七子年二月廿日備前国備後国の境
備後福山と論所横入御用ニ大命せらる
三月十九日御暇其余金二枚時服二を賜り其より
西国に参り御用を務めらる
九月廿八日御帰着

享保二十卯年八月十二日大内番組に
元文元辰年二月廿八日御城の御番より
参りて御暇白銀拾枚時服二を賜り
公儀にて御恩賜り
元文四未年夏二の丸御城の宿直風邪して
病ひ弥々重る
元文四未年六月廿三日於二の丸御城書死享年九十余
元真大ヶ龍に葬と京千本西に入所
長雲寺に送る

享保七壬寅年十月廿八日

石原四郎右衛門信富患氏

寶永四丁亥年三月廿五日卒

中嶋信組享保元申年三月之跡

大御番本多修理亮組忠右衛門石原左衛門慶通

改

年久

勘定

享保六辛丑年夏二ヶ塚の発掘ありて

享保九甲辰年秋大坂塚の発掘ありて

夫よりして古く古大坂の古塚よく古る

享保十乙巳年十二月廿四日青山の光異ありて

市ヶ谷の郷祖先ありける

元文五庚申年六月廿一日大御番細氏

寛保二壬戌年十一月朔日古塚の発掘ありて

黄金六枚白銀拾枚時服二をたまふ
同十三年九月朔日始て拝謁す
延享二丑年二月十二日二条城の留守に
黄金八枚白銀拾枚時服二をたまふ 同
三年五月十二日御役を辞す 是
よりさき大坂にありて病る
寛延元辰年秋大坂城にありて病の
うち明乃
寛延二巳年五月廿六日播州姫路
城引渡御用を命ぜられ十一事を
つとむ 是より后もたびたび出仕に
及ぶへく勤仕す

明和二酉年三月十二日西城御先手より
同年十二月十五日布衣を着することをゆるさる
安永四未年十月十二日老衰時服三をたまふ
寄合に列す
安永七戌年四月四日致仕す 養老の料三百俵を
たまふ
同年十二月十三日死 八十四歳

享保四亥年十月十八日
梶新右衛門正緑惣領
小普請組酒井大和守支配
大御番青山修理亮組　養儀　梶新十郎富陳
改　新右衛門

富陳亡父正緑の跡式家督
元文元辰年十二月五日大御番青山組入
同年七月朔日二番儀の跡式被下置
右は侍跡白張対服之と偽る
元文三午年十一月廿一日番入四拾二歳死
延享四卯年十二月十九日致仕
宝暦二申年六月廿日死六十四歳

享保四亥年十月廿八日
正徳二辰年十二月廿七日跡目
寄合新見武信養子
小普請組有馬内膳支配
大御番松平伊豫守組 三百石 寄合新見勘解由 鷲蔵
鷲蔵川ひさ 京大坂の写本てよ
気ゝす
享保八卯年八月廿三日辞入安房主膳支配
元文元辰年十二月廿七日元組大御番
山名因幡守組へ帰番

享保四己亥年十月十八日
宝永六己丑年正月廿七日文章得業生補
正徳四甲午年七月十二日補文章生
大府書奉多任勅組

飯室左近将監昌継嫡孫弟組
飯室平千代昌親次男
山城国滝川村之兄
三百石　飯室権大夫昌豊
改　左京亮

享保六辛丑年夏京都御番の列に参る
享保九甲辰年秋御番の御役に参る
享保十一丙午年二月廿七日少将の附
頭御預る　と被仰付
享保十二丁未年正月廿一日新番頭柳原安芸守組

享保九辰年十二月廿二日

高尾惣十郎信敦惣領

享保七寅年十二月廿二日家督

小普請組有馬内膳支配

大御番山名因幡守組　實名　高尾源三郎信秀

改　惣十郎

信秀儀大坂御番之節病氣ニ付年ゝ事故ニ

寶暦二申年十二月廿七日御小普請御門切ニ書之訖

寶暦四戌年七月廿九日死　五十二歳

享保九辰年三月廿二日　深尾西右衛門元堂病死

享保三戌年閏十月九日跡目　小普請組有馬内膳支配

大御番山名因幡守組　二百俵　深尾四郎兵衛元孝

元孝　元文大坂の御番より年々事

勤く

延享三寅年四月廿二日死　四十九歳

享保九辰年三月廿二日

朝比奈八左衛門昌行養子
実ハ[illegible]組興津能登守某之二男

正徳二壬辰年八月廿七日継目

大御番山名因幡守組　五百俵　朝比奈権八郎昌尚

享保十一午年三月廿七日大奥御膳の時
歩行悩ミ候と称む

昌尚京大坂の家来ヲ以年々
勤々

元文四未年十二月廿九日辞入松下嘉兵衛之弟

延享三寅年四月廿日死　六十四歳

享保九辰年三月廿五日
松原平左衛門正精二男 母同
実者高橋組與力奥平能登守与力
正徳元卯年五月廿三日済
大御番山名因幡守組 二百俵 松原嘉助正徳
正徳元年大坂の宿にて病
享保十一午年十二月廿七日大御番の時
歩行勤る者と携む
享保十四酉年閏九月廿七日死 四十一歳

享保九辰年三月廿五日

宝永六丑年八月廿五日跡目二百石
柳本求馬政明惣領

尹源姓本氏政勝白百五十石加和
小普請組隠岐守支配

大御番青山岩因幡守組番衆　柳本数馬修政

改九左衛門

修政於大坂の御番に参事十七度
因大坂在番の時御宗重の役副
又御金奉行と勤め二ノ丸御蔵番の時
御役料を御ち奉行と勤む
享保十辰年三月十七日大番御用の時
奉行職と勤む
享保十四酉年十二月　居郭数年如是

延享四卯年九月三日大沢斎 書壱通

寛延二巳年七月朔日蹴鞠の装束ヲ
免され八沢殿白銀拾枚時服二ツを賜る
是より以前も此恩賜有り

宝暦二申年夏二条様の宗匠ニ参ル
宝暦五亥年秋蹴鞠の装束ニ参ル
宝暦八寅年夏二条様の装束ニ参ル
宝暦十一巳年秋蹴鞠の装束ニ参ル
明和元申年夏二条様の宗匠ニ参ル
明和四亥年秋蹴鞠の装束ニ参ル
明和七寅年夏二条様の宗匠ニ参ル
安永二巳年秋蹴鞠の装束ニ参ル

安永五申年三月十七日死 七十四歳

国立公文書館
National Archives of Japan

享保九辰年二月廿二日

坂本勝之助貞知養子

宝永三戌年十二月十二日誕生

実者信濃組勝川阿波守支配

大御番山名因幡守組三百五十石　坂本百助貞義

貞義　京大坂の定番に参る事

度々

宝暦三酉年七月廿六日死　年四十八歳

享保九辰年三月廿一日

正徳四午年十二月廿五日跡目

大御番青山岩周備守組

石野小左衛門廣征惣領
小普請組滝川播磨守支配

高三百石 石野三次郎廣明
内百石年俵

改 小左衛門

廣明享保の節ハ幼年ニ付家督
享保十乙年十二月廿日青山久保町の
火災ニ付 居邸類焼致候ニ付
同年四月廿日 右ニ付其間ニ二ヶ年
類焼ニ付夫々金三十両を拝借致候
同年十二月廿日 御金を拝借青山ニ而
き作有て金三十両を拝借致候

享保十五庚戌年十二月　一流ヲ令免許
右ニ付今年五月免許相渡ル
宝暦三癸酉年十二月二十日又此事ニ付
今年七月免許相渡ル
宝暦十三癸未年十二月廿六日老躰偏ニ令抜入山宮家
継中ニ而死
明和四丁亥年十月廿三日死　七十七歳

享保九甲辰年三月廿三日
宝永六己丑年十二月廿四日跡目
間宮孫左衛門包信惣領
小普請組伊丹兵庫組ニ而死
大河内書山名周備守組　山名　間宮市左衛門信豊
信豊　高木大坂の宿ニ而ニ年
厄々
元文四己未年二月廿七日死　四十六歳

享保九辰年三月廿二日
小林三之丞重良養子
中奥御小性組伊丹兵左馬之支配
享保八卯年十月二日跡目
大御番山名因幡守組言家小林金之丞保良
段十五歳

保良家大坂の家系了よ系ゟ年
寄く
享保十二未年三月廿七日史ゟ御将の時
歩行勝手と勢む
寛保元酉年六月十九日隠入阿部伊織支配
宝暦四戌年六月十八日元組大御番

享保右京亮組江御書

享保九辰年三月廿五日

佐野十三郎政照養子
享保六丑年十二月廿八日番入
小普請組曲渕下野守支配
大御番山名因幡守組　当辰　佐野新八政澄
歳十六歳

政澄元来大坂の富豪ニて又兵衛と申者
享保十二年三月廿二日大番御頭の時
歩行被召出と御免

元文五申年十二月廿八日大御番組江
寛保二戌年七月朔日抜擢ノ後ニ
御目六ヶ所ニ御帳白銀并時服二を賜る其
上ニ御加恩賜る

延享二丑年夏二条城の定番ニ参ル
寛延元辰年秋坂城の詰番ニ参ル
宝暦元未年夏二条城の加番ニ参ル
宝暦八寅年秋坂城の詰番ニ参りに
病ひかゝり
宝暦十辰年七月廿日於大坂城病死享年六十
政隆の骸を大坂寺町天然寺ニ送る

享保九辰年三月廿二日
享保六丑年十二月廿日許
大御番山名因幡守組
本多山城守則信養子
山本信濃守内藤家分子死
三番 遠山市之丞則義
則義家大坂の詰番ニ参る事三度
享保十六亥年秋代人として坂城へ
参り詰番しありし小病ひかゝり
享保十六亥年十二月十八日於大坂城病死三十二歳
則義の骸を大坂の長久寺ニ送る

享保九甲辰年三月廿七日
宝永二乙酉年閏四月廿四日父乱心ニ付
三百二十石之内二百二十石ヲ下
大番青山石見守組
速水右近四郎 西條忽領
實子惣領 内(?)養子(?)
二百二十石 速水七郎兵衛 當

酉當ゟ父ニ依而 宝永四亥年
十月廿六日大坂城の番衆ニ而 狂気ニ而
自殺いたしかし 明の子年閏四月廿四日
ニ遺跡を酉當ゟ二百二十石を掃ゟ
下儀ハ加しる
酉當ゟ大坂の番衆ゟ年ゟ年ゟ
享保十一年三月廿七日 大久保佐渡守時

延享元子年十二月十二日 新御番菅沼兵部組
歩行難儀ニ付と願之

享保九辰年三月廿三日
宝永七寅年十月十二日跡目
大御番 岩因幡守組 二百石 波多野左衛門義昌
波多野半之助義忠惣領
実者佐藤但馬守家来右衛門四男
改名之助

義昌家大坂の定番ニ而与力共ニ二年ニ二度
享保十午年三月廿七日小人御将の時
歩行難儀ニ付と願之
享保十戌年秋頃彼の定番之ニ而冬ヶに
同年十二月廿六日 依而大坂の御定番勤る
冬ニ而ヒ大坂ニ新て止て願之其の
願之ニ而候由並ニ付而候一ツれん

享保十七壬子年二月十九日 大坂御定番

此度関東より奉書を以て 仰出され

御城代土岐丹後守頼稔相役仰付られ

享保十八癸丑年 辞去人事を致しに

十月二十日免され入来 覚見新右衛門是死

寛延元戊辰年四月八日死 享年二十四歳

享保九甲辰年三月廿二日

享保十乙巳年七月九日[illegible]

大御番山名因幡守組

平木市之丞時連養子

実者小普請組[illegible]出雲守支配

二百俵 平木新八郎英時

後 七十郎

英時京大坂の[illegible]よる来し

享保十二丁未年三月廿二日 小金御将の時

出河[illegible]とを誓免

享保十四己酉年閏九月廿四日 辞入小出伊織支配

元文三戊午年二月廿八日死

享保九辰年十月九日

成瀬中務丞政典 所

山本伝四郎隆門 藤原伴守文苑

宝永六丑年三月十二日跡目

大御番山名因幡守組 十二番 成瀬岩之助政満

改 源之進 大学

政満京大坂の宿直ヲ勤る事

度々

享保十三申年三月廿七日大谷御持の内

歩行勝手と勤め

宝暦三酉年三月廿一日新御番松平三之馬組

享保九甲辰年十月九日

元禄十丁巳年七月六日家督

大御番出石因幡守組　三百俵　近藤内記氏秀

近藤五郎右衛門政信惣領

出雲守組松平彦九郎女之死

改　五郎右衛門

氏秀六十六歳の頃より家督年

勤く

享保十三壬午年三月十七日大岡越前守の時

出府惣ミてと移む

元文四未年四月朔日　隠居入竹中周防守之死

宝暦四戌年八月十八日死　八十一歳

享保九辰年十月九日

永井左内跡之久忠厳

宝永三戌年十月廿日跡目

小普請組松野八郎兵衛支配

大御番山名因幡守組 三百俵 永井左源太盛照

盛照ハ亡兄左殿の弟ニ而家督ニ成

享保十一午年三月廿七日大番勤務の時

歩行難成とて勤め

享保十五戌年八月廿三日寄合居郷

あけきハ小普請組中入明にて

三百石俸の地を賜る

延享二丑年九月十九日死 四十三歳

享保九辰年十月九日

享保六丑年十二月十二日家督

大河内山名周備中守　二万石　加藤内蔵之丞忠

松平利右衛門則忠氏

実者信但馬松野八郎兵衛次子

同年秋坂城の宗家ゟ来ル

享保十一午年三月廿七日大番将の時

歩行轎子とも

享保十二未年四月廿二日死

享保九辰年十月九日

元禄四辛未年六月十二日誕生

酒井左衛門勝豊惣領

小普請組伊丹左馬之亮

大御番山名因幡守組 二百俵 酒井求馬勝豊

改主馬

勝豊二度大坂の番をも勤り

享保十壬年十二月廿七日小普請組の時

出羽様よりと称む

享保十五戌年四月十三日新御番山宮家平左衛組

享保十五戌年十月廿六日

小長谷伊左衛門跡無之処

享保十三申年十二月廿六日家督

其後追而青木縫殿助支配

大御番山名因幡守組　高四百俵　小長谷喜三郎　時年

改　左右衛門
伊左衛門

時年京大坂の窮乏にて年々衰

享保十七子年閏十月廿五日　小日向石切橋

小榎町にて居邸の地を借る

寛保二戌年七月　日　辞　入長谷川久三郎支配

宝暦二申年十二月十日　致仕

宝暦三酉年三月廿五日　髪を剃りて

柏翁と云

宝暦七丑年十二月十七日死 年二十歳

享保十五戌年十二月廿六日 新見伊左衛門長養子

享保十四酉年七月十八日家督 小普請組青木縫殿組支配

大御番山名因幡守組 三百俵 新見万五郎正尹 改 伊左衛門

宝暦十辰年三月廿三日 大御番組ニ

正尹二番大坂の在番ニ八年ニ年詰く

同年七月朔日坂城の詰場ニ而 年三六

時服白銀被下候

以思賜る

宝暦十三未年其二番坂城の在番ニ而

明和三戌年十二月九日拝入 松平頼母支配

同年同月廿七日死享七歳

享保十五戌年六月廿二日

保田孫兵衛自分惣領

享保十九寅年十二月廿二日家督

小普請組建部長次郎支配

大御番山名因幡守組

初名　保田助次郎　保守

改　織部

保守二男大坂の発番衛より家を奉養く

宝暦三酉年三月廿二日　新御番　松平主馬組

享保十五戌年十一月廿六日

小池伊三郎二女 忠尺

小普請組建部三郎右衛門支配

享保六丑年八月三日跡目

大番青山右因幡守組 番衆 小野権兵衛高光

同年秋頃嫁の後病ニ来ル

享保十七子年十月五日 死 二十一歳

享保十五戌年五月廿五日

享保廿乙卯年十二月廿八日謄寫

大行青山岩圓情寫組

西山右京之亮源昌方写畢悉爪

寫写組建部玄部加備中守

三帝儀 西山求馬留卿

改 右京亮

元文三午年八月十三日 西丸御納戸

享保十五戌年五月廿七日

享保十五庚戌年閏九月十二日死

松平伊豆守 西之丸奉行子

大御番山口周防守組

小普請組丹羽五左衛門支配

三百俵 松平金之丞 嫡

改 伊左衛門

西時 京大坂の定番与力等事

在々

寛延三午年十二月十八日新御番入金田三之丞組

享保十五戌年五月廿七日

松平采女ノ右衛門信正悪所

享保十八丑年五月廿四日隠居

小普請組小出伊織支配

大御番山名因幡守組

三百俵　笠原又十郎信種

信種ニ家大坊の実子ニて来る

寛保元酉年二月六日　新御番多賀七左衛門組

享保十五戌年五月廿二日

享保十四酉年十二月廿三日家督

大御番山岩因幡守組

井出三郎右衛門西丸御書院番与頭

実者御小姓組伊藤成之助

内分儀

二百表高 井出伊七郎忠芳

西丸御書院番之頃の類之御用を奉り等今以存候

寛保元酉年十一月八日 要免御勝手方

享保十五戌年五月廿六日

服部源四郎 浪守忠氏

小普請組 奈良見部左衛門支配

享保九辰年四月二日 済

大河内善右衛門因幡守組 二百俵 服高市十郎 浪人

浪人京大坂の形之儀ニ付事ニ相成く

明和二酉年十二月四日 大河内書細氏

一 明和三戌年七月朔日 於城の節ニよ

鳥目六両 服白銀拾枚 時服二ッ備り

足りし京都ニ而事ニ付も 武恩揚

以て 本城ニ而て 形之儀ニ付事ニ候こ

天明元丑年四月二日 二ノ丸城の形之儀ニよ

事ハ今さよ願むかし日延之由
願ニ老衰計合書付差出候所
其通ニ

天明元丑年閏五月十日 老衰ニ付差免
越之隠居入道田源西ニ而死
寛政三亥年十月十六日死 八十二歳

享保十五戌年五月廿二日
享保十四酉年五月十三日婦月

大御番山名因幡守組 三百俵 青木市左馬義豊

青木又四郎義長養子
中奥番佐脇福淵左衛門次男
改 左京亮

義豊之父大坂の定番より年々事務く
寛保二戌年秋 坂城の法陽に参りしに
十月御銀関東よりくたさるゝ迄
守所にも之命せしまゝ江戸より行
蓮池御金蔵に納め十月十二日御暇
於江戸の事に労ありとて時服二領賜る

宝暦三酉年十月廿五日 大坂御破損奉行

同年十二月十六日御服参枚一時服
二ツを賜る
明和四亥年十二月二日番入松平主馬組
寛政十未年十二月廿五日死九十五歳

享保十五戌年十二月廿二日
元禄十五午年十二月廿五日跡目
小林新右衛門重吉惣領
小普請組福岡左兵衛組
大御番山岡周防守組 二百石 小林新八郎正長
改 武兵衛
享保十六亥年十二月廿八日番入福岡左兵衛組
寛保二戌年九月十七日死

享保十五戌年六月廿二日
小濱源左衛門 某無尽

享保十七子年九月十日跡目
小普請組福嶋左兵衛支配

大御番岩石因幡守組 二百俵 小濱傳次郎 某

傳次郎某高祖父の実父より
　養入 松下加賀守支配
寛延二巳年七月十九日評定所ニおゐて
御目見えき浪人因幡守左衛門ヶ悴を
實子ニ偽森川新右衛門ヶ方ニ
無弟貞之子ニ申しれ金干両を取まき
其後も御目見えき至極不届ニ付、

申偽りし事ニよりて御糺明の所先年
死失せし源七郎乙次郎二人の者ハ
同存せし処伊勢ニ而富せしと偽と
並ヘせし事悪しく次第との罪の
切るに至り次切腹其へしと次伝ニおゐ
能勢因幡守執次候ハて二百俵之領免
られてしく家絶せり

享保十五庚戌年五月廿六日

享保十巳年十二月廿三日跡目　森川権六郎信之養子

小普請組久留備前守支配

大御番山名因幡守組　三百俵　森川庄七郎信英

宝暦四戌年五月廿二日大御番組頭

信英ハ享大坂の在番ニ而年十歳

同年十二月朔日坂城の諸役人ニ而事色八

御服白銀拾枚時服二と賜る此後も

此恩賜なり

宝暦七丑年度々二条城の番之儀ニ付事

宝暦十辰年二月十二日死去享年二歳

享保十五戌年六月廿五日

久留米中将家来二男也

享保五子年十二月廿九日誕

小笠原信嶺久留米清教馬之死

大御番山名因幡守組　二百俵　久留米藤三郎堅明

改　甚五郎

寛保三亥年十二月十八日　二条御城御門番之砌

堅明家之故の霊夢ヲ得テ筆意く

延享元子年二月十五日　御服并金二枚

時服二領を賜り

宝暦七丑年七月廿八日　宜風和く

浮偈し　書法を勅る

宝暦八寅年十二月十八日辞入山口笠庫之死

明和四亥年三月朔日死　享年五十余

享保十五戌年五月廿三日

森川
書院番組久留島数馬之死
惣領

大御番山岸周防守組　二百俵　森川新五郎某

跡入竹中周防守之死

寛保三亥年　月　日死

享保十五戌年十二月廿六日
享保十四酉年九月二日隠居
大御番山岡備中守組

戸田市左衛門忠昌惣領
小普請組永見新右衛門支配
二百俵　戸田平十郎忠英
後　市左衛門

忠英京大坂の宿坊子ゟ年〻務く

宝暦四戌年十二月十五日新御番土屋主税組

享保十六辛亥年十二月廿五日

大御番山名因幡守組

大御番板倉右下野守組より元尚出候

二百俵　同宮本太左衛門栄澣

後三百九石

栄澣義享保の宮本又養子年高く

元文四未年十二月廿七日　跡目三百九石

是迄の二百俵ハ返上する

宝暦五乙亥年十月十日　大御番組衆

宝暦七丁丑年二月十五日二条城の宝蔵ニ而

年来之八御賑白銀拾枚被下之と帰る

是より何も出奔帰り

宝暦十辰年秋坂城の法帖を求む
宝暦十三未年夏二条城の宝墨を求む
明和三卯年秋坂城の法帖を求む
明和六丑年夏二条城の宝墨に余く
病ひありて明の
明和七寅年三月八日於二条城病死享年三十歳
葬濡の龍と二条千本通光清寺に送る

享保十六亥年十二月廿五日
大御番山岩田備中守組　大御番板倉伊豫守組本多市三郎三男
二百俵　高木吉三郎二男
改　法名
享保十八丑年四月朔日　部屋住　出生

元文元辰年四月廿七日

享保八卯年十二月廿三日跡目

長兵衛年八　宇右衛門子

忠蔵信組廿五歳卯年死

大河内甚右衛門惣組　三百石　長岡兵衛忠衣

忠衣実大坂の歌之清水年之事内存

寛延三午年十二月廿八日隠入甚右衛門目向之死

宝暦九卯年二月十六日死六十二歳

元文元辰年四月廿七日

後藤隠三郎良隆忠氏

享保十六亥年四月廿六日添目

小普請組朽木修理支配

大御番山名因幡守組　当名　後藤源右衛門一胤

元文二巳年三月廿五日大御番六番射術上達の
射手に列して年中打毛之時服二ツ賜る
元文四未年十一月十二日騎射御覧之首尾にて
銀子五枚を賜る
元文五申年三月十二日同し世業御覧之
首尾吹の者百首中に八十五て黄金二枚を
賜る

寛保元酉年四月十五日諸射御修行有て
賜物二反と賜る
寛保二戌年三月六日同じく業御覧有て賜物二反と賜る
同年秋坂城の諸侯より来り式年名を
御金拝領として関東下り十二月
十二日御暇時服二ッと賜り大坂まで
坂城より来りし家老手
宝暦七丑年夏二条城の番五人来り
御祝儀行ふと称む
宝暦九卯年十月廿四日大納言御復の
対面に列して時服二ッと賜る

明和三戌年十二月廿四日大御番組入

宝暦十辰年秋坂城の諸侯より来り
御家同年と称む
明和元申年十月廿八日大納言御復の
対面に列して時服二ッと賜る
同年十二月朔日坂城の諸侯より来り
御暇白銀拾枚時服二ッと賜り
明和六丑年六月八日隠居有馬家女元死
天明六午年十二月今年家督ハ
不相易ニ付ハ金壱枚を賜る
寛政元酉年五月廿二日死七十七歳

元文元辰年四月廿七日

弟(?)佐紀伊守 ... 歳 養子

小普請組 ... 支配

大御番山名因幡守組 御番

三百石 ... 紀伊守 ... 歳

同年秋 坂城の後備より来る

元文三午年十二月廿二日 辞入 竹中周防守支配

宝暦六子年七月廿七日 致仕 号精と云

宝暦七丑年二月十二日 死 七十四歳

元文元辰年四月廿七日

雨宮次郎右衛門為重養子
小普請組竹中周防守支配

享保十乙巳年八月二日跡目

大御番山名因幡守組三百俵雨宮平八郎忠昌

改 次左衛門

忠昌弟大坂の定番ニ而未ヲ年病死

延享元子年十二月十三日新御番高山安左衛門組

元文元辰年四月廿七日
三宅孫之助事次兵衛死

享保二酉年十二月九日跡目
小普請組能勢市十郎ニ而死

大御番山名因幡守組 三百石 三宅新右衛門 徳催

徳催 元ハ大坂の宅番ニ而家督ニ而年
五拾俵

寛延二巳年十月晦日死 三十七歳

元文元辰年四月廿七日

天野新右衛門忠實ハ養子

享保十四酉年十二月十二日跡目　小普請組能勢市十郎支配

大御番山名因幡守組　二百石十口　天野彦十郎忠貞ハ

忠貞ハ京大坂の御番ニ而も参

寛保元酉年十二月十日番入　永井監物支配

寛延二巳年五月六日　大御番戸田

近江守組ニ而入

元文元辰年四月廿七日

松田宇右衛門重庸志広之養子

享保九辰年九月廿九日跡目

小普請組大呂孝忠四郎支配

大御番出石周備守組 二百俵 松田六之助志徹

改 長左衛門

志徹 京大坂の宿直ヲ勤ル事

度々

宝暦九卯年十二月廿二日 寄合入 設楽吉左衛門支配

宝暦十辰年十二月廿九日 致仕 號止々と

判して 長く久しゝ云

寛政六寅年 十二月十二日死 八十二歳

元文三午年十二月廿三日

國頼中ニ為當重真ハ無所

忠吉彦組太刀三尺ニ寸九分

享保二十卯年十二月二日師門

大御番山名因幡守組　十三歳ニ元名　六年二十年　國頼太郎左衛門忠良

改　市左衛門

忠良　京大坂の宮まで参り

寛保三亥年十二月廿七日御腰物方

元文三午年十二月廿三日

享保九辰年七月二日跡目

山本數馬勝定惣領
小普請組土岐志摩守支配

大御番山名因幡守組當子儀 山本貞六郎勝倶
改 主庫

元文四未年夏 二条城の御番より
帰り

寛保元酉年七月十八日 西丸御小納戸

同年十二月十九日 布衣着用を免さる

寛保二戌年十二月廿四日死 三十三歳

元文三午年十二月廿三日
野々山佐源太兼壽二男
享保八卯年十二月廿六日家督
小普請組久留嶋数馬支配
大御番山名因幡守組 番若 野々山十郎兼幸
改 喜左衛門
兼幸 元ハ大坂の鉄砲方ゟ来る
延享元子年十二月十三日 新御番松前八兵衛組

元文三午年十二月廿三日
青木忠四郎義久無嗣
小普請伊佐組結城市十郎支配
元文三午年五月三日隠
大御番山名因幡守組跡目青木織部義彬
改彦兵衛
元文四未年夏二条城の在番にて来る
是より為大坂の在番に来る
延享四卯年五月廿日西丸新御番神保四郎右衛門組

元文三午年十二月廿三日

志村源六郎師道春忰子

小普請組杉本勘右衛門支配

元文三午年七月二日跡目

大御番山岸因幡守組置候　志村多宮師智

改新左衛門

師智大坂の定番を勤めし

延享元子年十二月晦日大坂御弓奉行

同年　月　日御暇黄金一枚時服二を

賜り

宝暦二申年十二月天王寺より

薬苑を造らせられ御用を務免

宝暦四戌年十二月御褒寄合に入て

以序まかせ
宝暦六丙子年十二月十二日御代官
宝暦七丁丑年九月相州酒匂川を修セ
らるゝ御用を命せらる是明の寅年
十二月金拾枚を賜りて其労にむくひらる
宝暦八戊寅年十月信州御代官
宝暦十庚辰年二月
至心院君十三回御追福御施行奉役
御用を勤む
宝暦十一巳年六月丹後但馬御代官
明和三丙戌年六月二日於丹州久美濱
陣屋死す年六十二歳

師翁の骸を久美濱の宗雲寺に
送る

元文三午年十二月廿三日
山角内記勝豊病死
享保十五戌年九月二日跡目
小普請組佐野吉之丞支配
大御番山名因幡守組二百七十俵 山角次郎左衛門勝定
元文四未年夏二丸炎焼の節ニ而焼失
元文五申年十月廿三日元方御納戸

元文三午年十二月廿二日
間宮左門盛政養父

元文二巳年閏十一月二日跡目
小普請組大岡忠四郎支配

大御番山名因幡守組二百俵　間宮新十郎盛伸

盛伸　家大坂の宮崎ゟ来る事前々
詳くし

明和四亥年十二月十二日婿入松平安九郎支配

明和七寅年四月廿二日致仕

明和八卯年三月四日死六十二歳

寛保元酉年八月九日

寛保元酉年七月廿日家督

佐野伝左衛門政長嫡孫養子

小普請組阿部伊織支配

大御番水野出羽守組　当分　佐野源五兵衛長禮

長禮　高大坂の御番より来る年

寄ゝ

宝暦六子年二月廿九日新御番松平主馬組

寛保元酉年八月九日

設楽長右衛門依願為養子

元大坂御番組本多山本左衛門組永井監物支配

大御番水野出羽守組　跡式儀　設楽長右衛門成雅

此年坂城の結構に多かりしに

病にかゝり

寛保元酉年十一月廿八日於大坂城中病死

寛保元酉年八月九日

内藤志摩守組 那教二男忠次
小普請組永井監物支配

大御番水野出羽守組 三百石 内藤喜三郎長政

政 三殿 三勝

延享三寅年正月十一日御弓場始の射手に
備りて時服二を賜り明の十二日営中にて
射させられ黄金二枚を賜る
同年九月廿五日大的百手射御覧の射手に
列して営中において時服二を賜る
延享四卯年八月廿七日新御番本多大学組

寛保元酉年八月九日

久保杉五郎勝政嫡孫ニ乗組
久保権之助勝安惣領
出雲守信組永井監物支配

元文五申年十二月廿二日跡目

大御番水野出羽守組二百五十俵　久保八十三郎勝友

改　源之進
杉　五

勝友坂城の繁之儀ニ付之事

一度

寛延三午年十二月十八日新御番駒木根肥後守組

寛保元酉年八月九日　石原新十郎正勝惣領

享保二十卯年五月廿六日家督　書院番組長谷川久三郎支配

大御番水野出羽守組ニ而吉宗儀　石原百之助正賢　改　新八郎

宝暦八寅年大坂の定番子ニ年ニ而年ニ而候

安永二午年六月廿二日　大御番組頭

安永六酉年七月廿九日　死　六十九歳

寛保元酉年八月九日
保木左太郎娘初而出氏

元文三午年七月二日嫁
小普請組北条新蔵支配

大御番水野出羽守組 三百俵 保木平八郎常徳
改浄郎

寛保二戌年秋頃城の縁を屋敷にて
帰し申候

寛保二戌年十一月二日 離縁後 当去死
常徳ヶ離縁と大坂小橋寺町の信長寺
へ送る

寛保元酉年八月九日　玉虫助十郎・豊島忠兵衛

享保八卯年十月廿九日跡目　小笠原但馬組小倉新兵衛支配

右御書院水野出羽守組　三番住　玉虫勘五郎重義

改　十九歳

第弐番大坂の御番に罷上り候事九ヶ度

延享三丑年二月十二日より江戸へ罷下り候の

大坂より長崎への御用罷出かへりしも

延享四卯年十二月九日風邪流行の

折節よりかけあまたの廃あるを

かゝる作りと申ける

宝暦九卯年十二月十六日十三歳

同宮重上くの勢めある重度とく〻嵯の
同よ百さ重ニて深浅し作も〻家
並冬之枝にと号
明和元申年十二月廿四日青山の中大奥
かく在郷數寄〻かつも見〻之
宝暦十己年九月十九日大御番組乃
射手に到して附属ニ八と号

明和七庚寅年六月三日大御番組与
安永元辰年七月朔日坂城乃
郷之備〻年重六御服自限斯
附属ニ八と号〻同よ出恩号仰
安永四未年長二条城の郷之備〻年〻

安永七戌年秋坂城の宮重〻年〻
天明元丑年長二条城の深浅〻年〻
天明四辰年秋坂城の張備〻年〻
天明七未年長二条城の郷之備〻年〻
明の年六月晦日京都大坂二条城
表上の附消防の事〻分〻重え
宮重〻三年〻仰しのち
八月廿日歴年めきたか〻作〻家〻
寛政二戌年三月十二日老辞並冬枝ニ
ても号〻入道親〻死
同年四月五日死七十二歳

寛保元酉年六月九日

享保十七年九月九日御同

大御番水野出羽守組　二百俵　弓削多平右衛門

弓削多源右衛門某政惣領

書院番組小笠原彦九郎支配

後　源右衛門

平右衛門

寛保二戌年　秋　於城の諸番相勤ル

延享元子年十二月十日　西丸御小納戸

同年同月十六日　布衣を免さる

延享二丑年九月廿五日　御本城に附仕遷

延享三寅年九月廿八日　表番町にて

三百九十坪の地を賜る

延享三寅年　十月十二日

国立公文書館
National Archives of Japan

大納言様　御小納戸
宝暦十辰年六月十三日　御本城ニ召返
宝暦十三未年九月六日　西城の掛りを
命せらる
宝暦十二午年十二月廿二日
若君の御方ニ属せらる
安永八亥年四月十八日　一統免されて
寄合ニ列す
天明元丑年四月廿一日　御小納戸
同年五月廿五日　西城の御小納戸
天明二寅年十二月廿四日　二丸御留守居
寛政四子年閏二月廿四日老衰　時服三を
賜り寄合ニ列す
同年八月十三日死　七十七歳

寛保元酉年八月九日
元文元辰年八月二日嫡
井上平兵衛長高嫡子
小普請組仲間周防守支配
大御番水野出羽守組二百俵 井上助之進長公
改 角右衛門
寛保二戌年秋煩候の節養子ニ而も
延享元子年十二月二日 移入左衛門平三郎与ニ死
明和八卯年十二月二日 致仕
安永五申年九月十二日 嫡子とそろそろ
二歳ニ而与云
寛政元酉年七月八日死 七十二歳

寛保元酉年八月九日

小泉市左衛門義真養子

小普請組竹中周防守支配

享保十七子年八月廿六日跡目

大御番水野出羽守組 二百五十俵 小泉庄次郎義昌

後 藤右衛門

寛保二戌年秋坂城の御番より来る

延享二丑年夏二条城の在番より来る

延享三寅年六月十日大御番組入

寛延元辰年七月朔日坂城の御番より

来るに付御服白銀拾枚時服二ツ賜る

是より以前も此恩賜有り

宝暦元未年夏二条城の在番より来る

国立公文書館
National Archives of Japan

宝暦四戌年秋拾櫓の張番ニ参り
宝暦七丑年夏二番櫓の當番ニ参り
宝暦十辰年二月六日本分の火消ハ
かくし濱町の郷報告ニかゝり申
同年秋拾櫓の張番ニ参り
宝暦十三未年夏二番櫓の當番ニ参り
明和二酉年十二月廿五日辞退入川口…死
安永六酉年十二月廿七日死 七十七歳

寛保元酉年八月九日
享保九辰年十二月廿六日誕生
太田南水野出羽守組 二百石 石原久右衛門政志
石原左平次政張嫡子
改
政志宝暦の番衆…
明和七寅年八月廿二日 隠居願…
奉行…と華へき候と…
安永元辰年二月廿九日 隠居の郷
報告ニかゝり申
安永二巳年二月晦日 死 五十歳

寛保元酉年八月九日

矢頭又左衛門照方惣領
小普請組大岡志摩守支配

寛保元酉年六月廿二日御目見

大御番水野出羽守組　二百石　矢頭又左衛門長興
内百石米俵
改金左衛門

長興京大坂の番衆ニ参る

延享四卯年五月廿二日様入長吉同人三部支配

宝暦六子年十月七日　大御番有馬
備後守組ニ入

寛保二戌年十二月三日

新御番ニ而内田志摩守組左門義居届

大御番青山備前守組 ニ而 逸見鼎之助義忠

改 勘右衛門

義忠事大坂御定番ゟ年ゝ季ゝ六ゝ

安永三午年三月十八日 御役御免 死 年六十余才

寛保二戌年十二月二日

大御番青山備前守組　三百俵　柳井九郎三郎次男

新御番青山因幡守組佐左衛門次男清左衛門

浪三百俵　浪　佐左衛門

次男高之坂の家督被小普請入被申渡

代人ともに元年六月

延享元子年八月廿六日跡目三百俵被下置

三百俵被下置候

宝暦四戌年正月廿七日四谷右京町の

御用屋敷の内ニて拝領被仰付候

宝暦九卯年十二月十五日　十ヶ年之間

宗雪より分家として大番ニ被召加
宝暦十三未年二月晦日御書院番の
内より大御番組頭に成
天明二寅年十月廿九日老衰病身ニ付願之通御番御免小普請入
天明八申年七月廿三日致仕
寛政元酉年四月八日剃髪致
風順と云
同年九月廿三日死 八十二歳

寛保二戌年十二月三日
大御番青山備前守組 二百俵 石野七三郎廣慶
西丸新御番市川十左衛門組八木右近廣隆
後二百五十俵 改 深一郎 八木右近
寛保二戌年父遺跡二百俵
其後二百俵被下候
延享元子年十月三日増二百五十俵
此二百俵ハ返上
延享四卯年八月廿七日新御番二ノ山組

寛保二戌年十二月二日

大御番本多紀伊守組原田左馬泰達悴

大御番青山備前守組　二百俵　朝比奈権平泰納（トシ）

後二百十七石

泰納　京大坂の勤ニ依て家督

拝く

延享四卯年十二月三日跡目二百十七石

是迄の二百俵ハ返し上ル

天明元丑年十二月三日　死　六十七歳

寛保二戌年十二月二日

大御番松平大和守組七左衛門常治忠厄

大御番青山備前守組　二百俵　幸田石次郎某

延享二丑年二月十二日

延享元子年四月廿七日家督

川村権七一通嫡子
小普請組永井監物支配死

大御番青山備前守組 八番 川村権七一清

一清京大坂の勤番不参年々勤く

明和七寅年六月三日大御番組死

安永元辰年七月朔日相続の家督子
年々六時眼白殺時勝之偽り

安永四未年四月十三日死五十二歳

延享二丑年二月十二日

上田清十郎元常忠

小普請組永井監物支配

大御番青山播磨守組（五番）　二百石　上田清十郎元豊

元豊之二男大坂の醫者浦上へ養子ニ参ル

宝暦八寅年十二月十一日辞入　田中出羽守支配

天明元丑年正月廿日死　六十八歳

延享二丑年二月十二日
享保十三申年九月四日跡目
大御番青山備前守組

鈴木三郎兵衛忠辰
小普請組大久保志摩守支配

書院 鈴木猪之助政封
改 市之丞

政封京大坂の番並に上る事なく
宝暦六子年二月廿九日備前備中両国境
論所検分御用を命せられ四月十九日
御服黄金二枚時服二を賜ひ十一月廿八日
帰て復命す
宝暦九卯年十二月十四日十三年の間番並
上の勤めありしをもて黄金一枚を賜ふ

明和五子年十二月十七日拝入 神谷与惣右衛門支配

安永三午年八月七日致仕

安永四未年五月十三日 髪を剃りて

松翁と云

安永六酉年七月十九日死 四十一歳

延享二丑年二月十二日

享保十四酉年八月二日誕生

萩原一学実明某子

小普請組細井中周防守支配

大御番青山備前守組 昌儀 萩原三左衛門昌亮

改 源右衛門

昌亮 幼少の節病身に付家督之事無之

宝暦三酉年十一月一統に入金伝へ候る

と記 金二千両をかし候る

宝暦九卯年十二月十七日 十となる 同

宗重上の替りに而は 若人を捻て賜候

二条の御番衆而已 名代に而候る

宝暦十辰年二月二日 御目見御断乃

忠兵衛らハ深川元木場の鋪輯ヒ宗切る
明和二乙酉年十一月廿二日予任の為ニ
御致仕の時御供らに候して参府致
四月廿日営中に於て時服二領を賜る
明和三丙戌年三月十四日寛之助殿獨礼
之節御書物台を以て是ハ御書
考え之と合ふ十月廿日免さる

明和四丁亥年九月廿二日大御書経氏

明和六己丑年　月　日二条城乃
歌之御用へ八御服白銀拝領
二と認め是より古書の餘毎に
以恩賜了

安永元壬辰年秋坂城の定番ニ出づ
安永四乙未年夏二条城の定番なり
翁に明の三年春
是入し者なりて其旨を請ふ事を
御記明を郷しに　八四月廿八日
の儀
なり

安永八己亥年十二月晦日大坂城に卒　年六十二歳
卒去ヲ戴き生玉乃寺町
某寺に送る
齋藤書領石河河内守政恒より
遺跡の事ことに恩賜を賜ふ
遠く事を

十二月十六日評定所にてさまざまの
息男萩原源左衛門富愛に　我とき　富愛
御小性組　父任職にしたがひ職をうけ
し八大切にして抱し候ふて天地乃
者かくへましく御制法の示す事に
たがひしかくを致る仰せを蒙りく
送給田申儀遠かく偏る　御小性組　萩原富愛
十九日富愛が仰せを
あるをこうくへし

延享二丑年十二月十二日
寛保三亥年十二月十二日家督
小林長左衛門重能養子
小普請組竹中周防守支配死
大御番青山備前守組三百俵小林新十郎能芳
改　家督嶋
能芳京大坂の宿をして乗る事
度々
宝暦四戌年十二月廿日死四十二歳

延享二丑年十二月十三日

寛保二戌年十二月廿三日跡目

大御番青山備前守組 三百俵 大島左門某

大島金八郎室 實ハ恵氏

小普請依田組之付因悦助子死

淺助右衛

延享四卯年八月廿七日新御番加藤大学組

延享二乙丑年二月十二日

寛保二壬戌年十一月十三日家督

大御番青山備前守組　二百俵　寛延二己巳年西丸御小姓組

中奥御番戸川内記組御番入

寛　百俵　西丸

段

七郎左衛門

明和二乙酉

西丸二之丸山里の節御番年々勤ル

安永六丁酉年十一月十四日　御番　大御番組入

安永八己亥年二月十四日二条城の御番

年中八ケ所被仰付勤仕之節偽り

いつれも同月偽り

天明二壬寅年秋大坂城の御番年々

天明六丙午年　及二条城の御番年々勤ル

元禄八亥年二月廿七日老衰ニ付菱谷と
号シ今西意(?)ニ而死に入
同年十二月八日死七十五歳

延享二丑年二月十二日
寛保二戌年十月廿三日家督
伊東伊織祐勝伯父家督
小普請組長谷川久三郎支配死
大御番青山伯耆守組三百俵伊東長寿郎祐武
延享四卯年十二月廿九日隠居入[illegible]死
宝暦十辰年十二月廿三日死

延享二丑年二月十二日

曲渕松之助信章養子
小普請組長谷川久三郎支配

享保十七壬子年十二月十二日跡目

大御番青山佐渡守組　二百俵　曲渕豊次郎忠達

改　彦四郎

延享四卯年十二月廿七日辞入竹中周防守支配

安永九子年八月廿日致仕

天明八申年十月七日死七十六歳

延享二丑年二月十二日
延享元子年八月三日家督
大御番青山伯耆守組　言儀

或又ハ忠備忠氏
小普請組松下新右衛門妹

大高金右衛門忠敬
改忠右衛門

忠敬ハ大坂の新右衛門子来る
寛延二巳年十二月廿八日稀入　高寄合女之親
明和二酉年十二月十日致仕髪を剃て
曙山と云
天明二寅年十月十二日死六十四歳

寛延元辰年五月十日
延享四卯年十二月廿九日家督
郷右衛門儀後先養子
小普請組大岡志摩守組より老死
大御番大久保右京亮組 五番 郷右衛門倅貞雄
改 源右衛門
貞雄京都大坂の當番ニて年々年老く
天明二寅年七月六日拝入三戸川山城守より老死
寛政元酉年八月廿二日奥御右筆所詰
奥御右筆組頭格御役料百俵を賜る
同年十二月十六日布衣を免さる
寛政二戌年五月廿二日 先年平家
仁右衛門ら著述せし

神祖の御九族紀を河角雄對僕よ
及び撰ひしに依て其書籍
献りしよりてりふ　営中に
召されて時服二を賜る　此命記録の
心を用ひて今よ世になきるとの少な
うしさるもし八角雄よ伴勢角大久保
酉山金子の好古の人
けるもしう中へあり
寛政八辰年十月十三日老拝賜時服三
寄合より列す
同年十二月廿七日死　八十一歳

寛延元辰年五月十日
延享四卯年八月廿二日跡目
西丸新八郎吉之助處
書院組大嶋忠四郎与死
大御番大久保右京亮組　二百俵　西丸新八郎吉家
寛延三午年七月廿六日死　二十八歳

寛延元辰年五月十日

延享四卯年十二月廿九日家督　川勝三右衛門勝房嫡子

小普請組金田遠江守支配

大御番大久保右京亮組　番衆　川勝大次郎勝意

勝意事大坂加番ニ而当年ニ者所々

明和三戌年九月廿四日於大坂城在番中死去ニ案

勝意ハ弟ニ大坂出立前中ニ而

年要事ハ遠る

寛延元辰年十二月十日

延享三寅年十二月六日家督

荻原文右衛門昌韶養子
小普請組宮田兵太夫支配

大番南部大隅守組三番衆　荻原源右衛門昌福
改　文右衛門

昌福事大坂の役之儀ハ年々事左く

明和二酉年十二月廿九日　釈入　殿衆若君衛士之祝

明和三戌年三月十四日息男久之丞

昌春事江戸の事有て御覧まて

ことは歌君の事と伺ひしに御衆

その道の指南も大合をもし乃をまて是

まて歌君の事とし而中　而可乃

私に係て不届の罪のかれへからす
よつて蟄居すへしと仰付らる
同日父喜部流刑に処せらるゝ事六
かくと蟄居の事を伺ひしに
其儘にあるへしと仰付る十月朔日
改て蟄居すへしと仰付らる十二月
六日免さる
明和六己丑年八月廿三日勤仕
安永五丙申年十月五日死七十五歳

寛延元戊辰年五月十日
元文四己未年八月二日勤
大番大久保右京亮組　大井平九郎利道惣領　小普請組竹中周防守支配
卅石　内高俵　大井主税利意
後　九右衛門　平九郎
同年秋拝儀の宿直不参す
宝暦元辛未年夏二季儀の宿直不参す
宝暦四甲戌年十二月九日西丸新番書院補保田若狭守組

寛延元辰年五月十日

荒井四郎兵衛時壽甥
小普請信組松下石見守支配ゟ

再勤
大御番大久保右京亮組　三百石　荒井次左衛門定親

安永元辰年七月七日死　享年六十六歳

定親ゟ已後の系譜不傳ニ付年号事不詳

寛延元戊辰年十一月十日

福井勝之助久恵典氏

書院番組ニ付同子ニ被加之處

大御番大久保右京亮組 一平御 三百俵 福井嘉右衛門久豊

久豊之子ニ小太夫の家督ヲ以来ニ事ニ候く

宝暦五乙年十一月廿三日於大坂城在番死四十四才

久豊ノ髪を大坂東ニテ（ノ）の宝樹寺に

送る

寛延元辰年六月十日

上富平十郎　西尾忠氏

延享四卯年七月四日添番

書院番組戸川日向守支配

大御番大久保右京亮組　三番　長富吉之助正勝

後　平十郎

寛延二巳年十二月廿一日番入　本多大学支配

宝暦十辰年十月十三日大御番中支

松平長門守組ニ入

寛延元辰年五月十日
駒井宮内郡義武養子
小普請佐々川勝左衛門弟 亡死
大御番大久保右京亮組五番 三百俵 駒井内記親行
親行 京大坂の宿直に参る事
度々
宝暦十二午年閏四月廿八日辞 入門口能登守 亡死
宝暦十三未年 十二月廿六日致仕
安永二巳年二月廿六日死 七十三歳

寛延元辰年六月十日

右同日同断　重出恵願

小菅信濃守河勝左衛門支配

大御番大久保右京亮組　五番　三宗儀　右田楢母東和

東和義大坂の鑿ニ居ヨ年々参ル

宝暦十三巳年　我代人として　坂城乃

鑿ニ居ヨ年として候ひ而て明の年

宝暦十四申年七月廿六日旅大坂城ニ而病死寺ニ葬

東和　骸を大坂小橋の東寺町

楞厳寺ニ送ル

三番目 小笠原總督ニ

[illegible]

小普請組組頭支配〔?〕市十郎支配

三番手組 舂〔?〕 永井三郎吉惣領

段 伊織 寛吾

年十一月十二日騎射御稽古ニ而獨挽一反被下置

年秋騎射稽古の節上覧之為…きに騎射

月あまり八日騎射相止ル

文政三年三月廿八日又騎射御稽古ニ而

物に付被下

文化未年十一月十日大的六騎射御稽古

〔?〕中あまり八時服二被下ル

文政申年三月十三日騎射御稽古ニ而

の廿四日〔?〕年中に〔?〕嘉〔?〕被下ル

年八月廿六日騎射御稽古ニ而獨挽一反被下ル

天保元寅年十二月廿日又騎射御稽古ニ而

物二被下置是より以来〔?〕

〔?〕入〔?〕恩賜御〔?〕

天保三〔?〕年三月廿六日騎射御稽古ニ而

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan